

I 学期修了式

本日で無事I 学期が修了しました。

この後、40日近くある長い休みに入りますが、その間、子供たちには普段できない様々なことに出合ってほしいと思っています。

今の子供たちは普段忙しすぎて、次から次へとすべきことがあります。

子供期は黄金期なので、それはそれで貴重なことなのですが、自分自身を振り返ると、様々なことを思い巡らす時間があって、その時間の積み重ねが今の自分を形作ってきたような気がします。

このいつもよりも時間的に余裕のある夏休み、子供たちが様々なことに触れ、自分なりに考え、理解する、そんなことができる時間となれればと願います。

私が修了式で話した内容は次の通りです。

今日でI 学期が修了して、明日から夏休みに入ります。

皆さんには、ぜひ夏休みには、普段できないことにチャレンジしたり、行かないところに行ったりして、たくさんの体験をしてほしいと思っています。

さて、毎年8月になると、テレビなどでは、特集を組んで戦争についての番組を放送しています。

ここでいう戦争は、1941年から1945年まで4年間続いた「太平洋戦争」のことを指します。

「太平洋戦争」と言っても、皆さんはよく知らないし、ピンと来ないかもしれません。

なぜなら、もう80年も前の出来事ですし、今日本は、その後ずっと戦争をしていない、豊かで平和な国だからです。

時折テレビから、遠い国で起こっている悲惨な戦争の様子が流れてきます。

今の今、この瞬間にも同じ地球上にあるパレスチナやウクライナをはじめ、いくつかの地域では、街で人が武器をもって戦い、爆弾が落とされ、家は焼かれ、多くの人が傷ついたり、死んだりしてしまっています。

けれども、その80年前の太平洋戦争の時には、テレビの中に映し出されるような光景がそのまま、この日本のそこそこに確かにあったのです。

戦争が終わる年の3月には東京の広い地域で、空から爆弾が落とされ、8月6日には広島、9日には長崎で原爆というものすごい威力をもった爆弾が落とされ、戦争が終わる日の前の日14日の夜には県内にある熊谷にも爆弾が落とされました。

数えきれないほどの多くの人が亡くなり、傷つき、建物やそれまで大事にしてきた多くのものが壊され、焼かれ、何もない「焼け野原」になりました。

その焼け野原から、当時の人々は元通りの生活をそれこそ死に物狂いで取り戻し、今に至ります。

その恩恵を受けて、今、私たちは平和に幸せに生きています。

戦争は遠い国のものではなく、皆さんの住んでいる日本にもかつて、取り返しのつかない大きな傷を確かに与えてきました。

そして、この「平和」は、実は永遠のものではなく、何かささいな出来事をきっかけにして「戦争」となれば、すぐに崩れてしまう、脆いものです。

だから、戦争の悲惨さを記憶にとどめ、決して再び戦争をすることがないようにと、夏になると戦争について思いを馳せ、平和のかけがえのなさを実感できるようにしているのです。

夏休み中、皆さんがもし戦争のことを目にしたり耳にしたりしたときには、ぜひ今日私が話したことを思い出してください。

食べたいときに物が食べられ、のどが乾いたらきれいな水があって、健康で、明日への希望がもてる今の生活が、とても恵まれていて、稀なものだということをぜひ知ってほしいと思っています。

これから始まる37日間の長い夏休み。多くの体験をするとともに、様々なことに思いを馳せるよい機会にしてもよいかもしれませんね。

健やかに楽しく、意義のある夏休みを過ごしてください。

これで校長先生のお話はおしまいです。